

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171500313		
法人名	有限会社 サラサホーム		
事業所名	サラサホーム (2階ユニット)		
所在地	岐阜県中津川市手賀野403-5		
自己評価作成日	令和4年12月15日	評価結果市町村受理日	令和5年3月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2171500313-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和5年1月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>2階ユニットは、男性が1名となり、1名の方が入院の現在は9名となっています。 食堂・居間からはバイパスを走る車がよく見え、空も大きく明るい雰囲気の中で過ごされています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、周辺は山々に囲まれているが、交通量の多い国道の近くにある、高速道路のインターチェンジなども近い。家族などが訪ねるにも交通の便がよい環境にある。また、管理者も同じ地域で暮らしており、事業所と地域の関係も非常に良好である。地域の特性を深く理解し把握をしながら、住民に対して厚い心で接している。近隣住民からホームに農産物が届けられたり、近くに救急車が来ると、「ホームで何かあった？」と電話で尋ねられるなど、地域の人々から家庭的な繋がりを感じながら、地域密着型サービス事業所として、住民にも見守られながら運営しているホームである。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(2階ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	重度者と軽度の方と、入り混じる中をその方に合った支援が実践されている。帰宅願望の強い方も居られるが2階・3階とも同じように理念を共有して実践につなげている。	ホームの共有スペースや廊下などに、運営方針、ケアの理念を掲示している。これにより職員のみならず、本人や家族、来訪者にもホームの理念を知ってもらうことができている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	サラサホーム開設以来、地域の皆様には大変お世話になっており、野菜等届けてくださったり交流できているが、新型コロナウイルス流行の為、外部者との接触は残念だが行えていない状況にあります。	新型コロナ流行以前は、小学生の福祉教育の受け入れなどを行っていた。近隣住民から野菜等の差し入れがあったり、近くで救急車の音が聞こえると、電話で問い合わせがあるなど、住民との関係は非常に良好である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症を理解して頂く為に始めた「介護実習」や10年は実践されている「いい日・いい日介護の日」の入居者の皆様と食事作りから始めて食事を一緒に食べて頂く交流も出来ていたが「新型コロナウイルス」流行の為、計画された行事がほとんど出来ていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	「新型コロナウイルス」流行により、運営推進会議は行えていませんが、サラサだよりにて委員の方とご家族様にはお知らせしています。	対面での会議は行えていないが、「サラサだより」には利用者の写真をふんだんに取り入れて、運営推進会議委員や家族に配布している。毎回、便りには運営方針、ケア理念を掲載し、行事や活動内容を報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	「新型コロナウイルス」流行の為、大変な日常であったが、市町村担当者とは日頃から連絡を密にとり、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くようにしている。	行政が主導する会議や研修会などは、参加が困難であったが、コロナ禍であったことから、今まで以上に行政と電話等で情報をやり取りする機会が増え、連携はとれている。新しい行政職員とは、頼られる関係性もできている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び、すべての職員が身体拘束の弊害を認識し、例外以外の拘束は行ってはならないと自覚して、安全を確保して自由な暮らしの支援に努めている。	身体拘束について、正しく理解を深められるよう研修を行っている。全職員に、拘束や虐待防止についての考えと意向を文書にて提出させる取り組みも行っている。また、やむを得ず身体拘束を行う場合は運営推進会議にて検討、共有を図る仕組みが整っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等時間に虐待について話し合い、職員は事業所内の虐待を見過ごす事がないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、2階利用者で、何年も前から独身男性について制度を考えており、やっと4年度成年後見制度を活用出来る様になりました。3階は現在も3名が活用をされています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に至るまでに、ホームを見学して頂き、ホームからも本人様と面接させて頂いている。ホームの説明や本人様の様子などをご家族の方に説明し、其の上で入所と決めているが事実を隠されているご家族様もいて入院・退所となる場合もある。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、家族会は実施してきましたが、「新型コロナウイルス」流行の為、実施出来なかった。現在も続いています。	例年、職員との関わりや食の好みを尋ねるアンケートを実施している。家族からは、信頼と感謝の言葉が寄せられることも多い。アンケート結果は、サラサだよりに掲載したり、運営推進会議で報告し更なる改善に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者が県外にいるために、意見や提案を聞く機会を設ける事が出来なかった。それなりに運営は出来ていると思う。	管理者と職員の信頼関係が構築されており、管理者は、話しやすい雰囲気作りと働きやすい職場環境づくりを実践している。また、代表には、管理者から職員の要望や提案を伝え、検討しながら運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自が向上心を持って働けるように、日頃の努力や実績、勤務状況等だけは報告している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成の重要性を認識し、段階に応じた研修の中で学びの機会は出来なかったが、知識を身につけていくように勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は「新型コロナウイルス」の為に中止となっている。同業者との交流の場も持てなかったのが残念です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様との状況等の食い違いもあるが、本人が困っている事などに耳を傾けながら、本人が安心して暮らせる事への支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所と決まった時点から、本人と家族の意見に耳を傾け良好な信頼関係を築きながら、本人が安心して日常生活を送れる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が求めている支援を見極め、今後の暮らし方への対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、介護者としてだけではなく、暮らしを共にする家族だと思って、日々寄り添って関係作りに励み見守って暮らしております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の方は勿論の事、ご家族様との絆も大切に考えて、本人を支えていく関係を築いております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が、大切にしている馴染みの場所等を継続して支援したいが、近年の家族関係が大変に淡白なものとなって来ました。ですが本人が求めている事に対しては精一杯の支援をしております。	過去には、「墓参りに行きたい」「自宅を確認したい」といった要望を受けたり、利用者個々に寄り添いながら、馴染みの関係を継続する支援を行っていたが、現在は難しい状況である。市内在住の家族限定ではあるが、10分程度の面会は可能としている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を大切に、楽しく日常生活が送れる様に支え合って暮らせる支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、必要に応じて関係を大切に支援させて頂いております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族様の今後の人生の事を考えてアドバイスしたり、困った事等の相談を受け、本人の意見に耳を傾け出来る限りの支援はしている。	日々の利用者との関わりの中で、聞き取った内容や言葉を介護記録に残し、引き継ぎの際に職員間で共有を図っている。また、本人が感情的になった時にこそ、丁寧に意向を汲み取るように心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人が、大切にしている馴染みの場所等を継続して支援したいが、近年の家族関係が大変に淡白なものとなって来ました。ですが本人が求めている事に対しては精一杯の支援をしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人と家族が求めている支援を見極め、今後の暮らし方への対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員・本人・ご家族様と話し合いながら、現状即した介護計画を作成している。	サービス担当者会議は、事前に家族などに意向の聞き取りを行っている。ケアマネが中心となり、3か月に1度モニタリングを行い、本人・家族の意向も計画に反映させている。また、職員間で意見交換を行い、現状に即した介護計画作りに取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録をもとに、カンファレンス等で介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の家族の状況、その時々生まれるニーズに対応してサービスの支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	この所、数年は「新型コロナウイルス」の為に会議や行事は出来なかったが、野菜をいただいたり、常日頃声かけをして下さっている。頑張れる力もいただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の嘱託医の往診にて薬処方をして頂く。歯医者は指定契約を行う事について、ご家族の意向も相談して決めるべきだと思っている。高齢で病院を退院となった場合は、住み慣れたホームで本人家族様・職員で最後迄支援している。	かかりつけ医については、本人・家族の希望があれば入居以前の主治医を継続することができる。協力医は定期的な往診があり、歯科医については状況に応じて、本人家族の意向を受けとめ、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを医師に相談しながら適切な受診を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	出来るだけ早期に退院出来る様、病院関係者と相談に努めている。病院関係者とは、良い関係作りが出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の方針は、ご家族様と相談の上ホーム側が納得して、高齢で在宅で看取るのが困難な場合は、終末期は施設で最期を迎えて頂いている。	終末期においては、本人・家族等に丁寧に説明を行い、後悔のない看取りを実施している。看取り後の家族へのグリーフケアと共に、看取りを行った職員へのケアも行いながら、全職員が振り返りと見直しに努めている。	看取りに関する指針など、職員間で共有するための研修実施と共に、地域にある医療機関などの社会資源との連携で、より良い支援の提供となるよう期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、消防訓練も「新型コロナウイルス」の為に中止にしている。実際の場面での対応も他人様の様に思わず、技術を活かせる事を全ての職員で実践力を身につけられる様に取り組みたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を問わず利用者が早期に避難出来る為に連絡網を「ピラミッド型」にしている。地域の住民の方にも通報出来る仕組みとなっている。	BCPを策定し、災害時における職員の役割分担を明確に定めている。災害発生時には、避難所ではなく施設にて留まることを契約時に説明している。また、近隣住民の避難も受け入れができるよう、備蓄などを整えている。	

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重しプライバシーには特に気を付けている。優しい言葉で安心して過ごせる環境の下で暮らして頂いている。	常に、利用者一人ひとりを尊重した声かけと対応に努めている。共用スペースには、プライバシー保護に関する掲示物が貼ってある。本人、家族、来訪者等、誰もが目にしやすい場所に示す事で、職員の意識化と共に、ホームの取り組みへの理解に繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中では、本人の思いや希望を聴いたり自己決定できるように働きかけて対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員に合わせた介護はしてはならないと、常々思っている。一人ひとりのペースに合わせたサービスは難しい。だが自分のペースで暮らしている方を見守り安全に暮らせる支援をしている。(暮らし方を決められた方には自由な時間も大切だと思っている)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方らしい身だしなみの支援はしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、皆さん大変に楽しみにしている様子です。手作りのご飯は我がホームの自慢です。以前は一緒に食事作りを楽しんでいたが、この頃のお方は作るのが嫌いな方が多い。「新型コロナウイルス」流行から少なくなっています。	アンケート調査で、食事についての意向を把握している。地域住民から差し入れられた野菜などもふんだんに取り入れ、バランスのよい食事を提供している。フロアによって提供するメニューが異なるが、柔軟に対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養に関しては、常々気を使っている。水分摂取に対しても食事と同様に記録をしている為に体調不良の場合は、食事摂取の様子で少しは把握が出来ます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食後と夕食後には、全員が歯磨きをしており、ポリデントは週一度の実施をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便記録は記入しており、水分・食事に対しても気を使っていますが、便をする事自体が出来ない利用者もおられ、お腹のマッサージ、若しくは便を柔らかくする薬を服用している方もおられます。	排泄困難時などは、飲食物の工夫だけでなく、腹部のマッサージを行うことで薬に頼らない排泄が出来るよう支援している。また、トイレでの排泄がしやすいリハビリパンツを使用するなど、工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に対して、飲食物の工夫や運動への働きかけ等は、個々に応じて取り組んでいるが、困難な事も多い。必要時には便秘薬を服用する事もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	行事等があった時は、入浴は出来ない日もあるが、休館日がない為に入浴したければ毎日でも入る事が出来る。	季節の入浴剤などを活用することで、入浴の時間を楽しめるよう工夫している。希望すれば、毎日でも入浴が可能である。個浴だけではなく、機械浴も利用が可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活歴も必要だと思うが、今求めていることを大切に、休息の時間も取り入れ、日々穏やかに暮らせる事への支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用に対して記録もあり、気をつけて対応している。常に症状の変化に目配りし確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日が同じパターンにならない様に心掛け、楽しみ事も考え実施している。無理矢理に参加させず自分決めでてもらっている為に全員が参加するわけではない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	残念だが「新型コロナウイルス」の為に、ほとんど外出させてもらっていない。面会も散歩も出来ず、現在の所は施設内にて10分以内の面会も市内の方のみであり、ユニットへの立入りは禁止している。	天気の良い日には、窓辺で外気浴を行ったり、室内で出来る体操を行うなど、利用者の下肢筋力や意欲の低下とならないよう支援している。新型コロナが収束した際には、以前のような外出支援を行いたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時にお小遣いはお預かりしているが、本人が持ち歩くことはありません。自由に買い物可能な利用者の方はおられません。トラブルの元にもなりますので、必要時以外は出来ません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方から電話をかける事は、本当に稀にしかありませんが、ご家族様からかかってきた場合はゆっくりとお話されている。利用者様の様子を見て管理者の携帯で話して頂く事はあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間、特に3階は廊下も広く車椅子可能です。不快な感じを受ける場所はないと思われる。見学に来られたご家族の方で見学に来られた方に入所をお断りされた事はない為に古い建物だが雰囲気が良いと言われ気になって下さる。特に2階は狭い空間ですが暖かみを感じて頂ける様です。	ホーム内の至る所に写真が掲示されている。また、エレベーター前にはアルバムが10冊程度置いてあり、開設後の写真等も、来訪者が自由に見られるよう工夫している。「ホームの歴史」というコーナーには、ホーム立ち上げ時からの写真が貼られており、見学者の参考にもなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特に気にしなく、居間にて皆さんで過ごされたり、疲れた時には自室で一人でテレビ鑑賞やベッドで休まれております。時間になると、自ら食堂に出て来られます。殆ど全員がレクリエーションに参加されている。仲良しの方の居室訪問などもされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人・ご家族の方の好みで全く同じ居室ではありません。以前は、タンスなどの持込の物がありましたが、それを使用している利用者の方は現在ではおられません。	居室入口には、利用者が自分の居室が分かりやすいように、目印の暖簾が掛かっている。室内には、レクリエーションで取り組んだ塗り絵や写真を飾り、落ち着いて過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不安や混乱を招く事がないように安全・安心に暮らせる様に工夫しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171500313		
法人名	有限会社 サラサホーム		
事業所名	サラサホーム (3階ユニット)		
所在地	岐阜県中津川市手賀野403-5		
自己評価作成日	令和4年12月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和5年1月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>3階ユニットは、朝食の時は太陽の光を受けて美味しく食事をいただける雰囲気であり、下を見れば住宅の屋根ばかりですが、遠のく山々もよく見えて、皆さんでパズル等を楽しみ楽しく過ごされています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(3階ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	重度者と軽度の方と、入り混じる中をその方に合った支援が実践されている。帰宅願望の強い方も居られるが2階・3階とも同じように理念を共有して実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	サラサホーム開設以来、地域の皆様には大変お世話になっており、野菜等届けてくださったり交流できているが、新型コロナウイルス流行の為、外部者との接触は残念だが行えていない状況にあります。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症を理解して頂く為に始めた「介護実習」や10年は実践されている「いい日・いい日介護の日」の入居者の皆様と食事作りから始めて食事を一緒に食べて頂く交流も出来ていたが「新型コロナウイルス」流行の為、計画された行事がほとんど出来ていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	「新型コロナウイルス」流行により、運営推進会議は行えていませんが、サラサだよりにて委員の方とご家族様にはお知らせしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	「新型コロナウイルス」流行の為、大変な日常であったが、市町村担当者とは日頃から連絡を密にとり、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び、すべての職員が身体拘束の弊害を認識し、例外以外の拘束は行ってはならないと自覚して、安全を確保して自由な暮らしの支援に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等時間に虐待について話し合い、職員は事業所内の虐待を見過ごす事がないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、2階利用者で、何年も前から独身男性について制度を考えており、やっと4年度成年後見制度を活用出来る様になりました。3階は現在も3名が活用されています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に至るまでに、ホームを見学して頂き、ホームからも本人様と面接させて頂いている。ホームの説明や本人様の様子などをご家族の方に説明し、其の上で入所と決めているが事実を隠されているご家族様もいて入院・退所となる場合もある。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、家族会は実施してきましたが、「新型コロナウイルス」流行の為、実施出来なかった。現在も続いています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者が県外にいるために、意見や提案を聞く機会を設ける事が出来なかった。それなりに運営は出来ていると思う。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自が向上心を持って働けるように、日頃の努力や実績、勤務状況等だけは報告している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成の重要性を認識し、段階に応じた研修の中で学びの機会は出来なかったが、知識を身につけていくように勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は「新型コロナウイルス」の為に中止となっている。同業者との交流の場も持てなかったのが残念です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様との状況等の食い違いもあるが、本人が困っている事などに耳を傾けながら、本人が安心して暮らせる事への支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所と決まった時点から、本人と家族の意見に耳を傾け良好な信頼関係を築きながら、本人が安心して日常生活を送れる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が求めている支援を見極め、今後の暮らし方への対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、介護者としてだけではなく、暮らしを共にする家族だと思って、日々寄り添って関係作りに励み見守って暮らしております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の方は勿論の事、ご家族様との絆も大切に考えて、本人を支えていく関係を築いております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が、大切にしている馴染みの場所等を継続して支援したいが、近年の家族関係が大変に淡白なものとなって来ました。ですが本人が求めている事に対しては精一杯の支援をしております。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を大切に、楽しく日常生活が送れる様に支え合って暮らせる支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、必要に応じて関係を大切に支援させて頂いております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族様の今後の人生の事を考えてアドバイスしたり、困った事等の相談を受け、本人の意見に耳を傾け出来る限りの支援はしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人が、大切にしている馴染みの場所等を継続して支援したいが、近年の家族関係が大変に淡白なものとなって来ました。ですが本人が求めている事に対しては精一杯の支援をしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人と家族が求めている支援を見極め、今後の暮らし方への対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員・本人・ご家族様と話し合いながら、現状即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録をもとに、カンファレンス等で介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の家族の状況、その時々生まれるニーズに対応してサービスの支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	この所、数年は「新型コロナウイルス」の為に会議や行事は出来なかったが、野菜をいただいたり、常日頃声かけをして下さっている。頑張れる力もいただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の嘱託医の往診にて薬処方をして頂く。歯医者は指定契約を行う事について、ご家族の意向も相談して決めるべきだと思っている。高齢で病院を退院となった場合は、住み慣れたホームで本人家族様・職員で最後迄支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを医師に相談しながら適切な受診を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	出来るだけ早期に退院出来る様、病院関係者と相談に努めている。病院関係者とは、良い関係作りが出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の方針は、ご家族様と相談の上ホーム側が納得して、高齢で在宅で看取るのが困難な場合は、終末期は施設で最期を迎えて頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、消防訓練も「新型コロナウイルス」の為に中止にしている。実際の場面での対応も他人事の様思わず、技術を活かせる事を全ての職員で実践力を身につけられる様に取り組みたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を問わず利用者が早期に避難出来る為に連絡網を「ピラミッド型」にしている。地域の住民の方にも通報出来る仕組みとなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重しプライバシーには特に気を付けている。優しい言葉で安心して過ごせる環境の下で暮らして頂いている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中では、本人の思いや希望を聴いたり自己決定できるように働きかけて対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員に合わせた介護はしてはならないと、常々思っている。一人ひとりのペースに合わせたサービスは難しい。だが自分のペースで暮らしている方を見守り安全に暮らせる支援をしている。(暮らし方を決められた方には自由な時間も大切だと思っている)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方らしい身だしなみの支援はしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、皆さん大変に楽しみにしている様子です。手作りのご飯は我がホームの自慢です。以前は一緒に食事作りを楽しんでいたが、この頃のお方は作るのが嫌いな方が多い。「新型コロナウイルス」流行から少なくなっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養に関しては、常々気を使っている。水分摂取に対しても食事と同様に記録をしている為に体調不良の場合は、食事摂取の様子で少しは把握が出来ます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食後と夕食後には、全員が歯磨きをしており、ポリドントは週一度の実施をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便記録は記入しており、水分・食事に対しても気を使っていますが、便をする事自体が出来ない利用者もおられ、お腹のマッサージ、若しくは便を柔らかくする薬を服用している方もおられます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に対して、飲食物の工夫や運動への働きかけ等は、個々に応じて取り組んでいるが、困難な事も多い。必要時には便秘薬を服用する事もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	行事等があった時は、入浴は出来ない日もあるが、休館日がない為に入浴したければ毎日でも入る事が出来る。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活歴も必要だと思うが、今求めていることを大切に、休息の時間も取り入れ、日々穏やかに暮らせる事への支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用に対して記録もあり、気をつけて対応している。常に症状の変化に目配りし確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日が同じパターンにならない様に心掛け、楽しみ事も考え実施している。無理矢理に参加させず自分決めでてもらっている為に全員が参加するわけではない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	残念だが「新型コロナウイルス」の為に、ほとんど外出させてもらっていない。面会も散歩も出来ず、現在の所は施設内にて10分以内の面会も市内の方のみであり、ユニットへの立入りは禁止している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時にお小遣いはお預かりしているが、本人が持ち歩くことはありません。自由に買い物可能な利用者の方はおられません。トラブルの元にもなりますので、必要時以外は出来ません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方から電話をかける事は、本当に稀にしかありませんが、ご家族様からかかってきた場合はゆっくりとお話されている。利用者様の様子を見て管理者の携帯で話して頂く事はあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間、特に3階は廊下も広く車椅子可能です。不快な感じを受ける場所はないと思われる。見学に来設された、ご家族の方で見学に来られた方に入所をお断りされた事はない為に古い建物だが雰囲気が良いと言われ気に入って下さる。特に2階は狭い空間ですが暖かみを感じて頂ける様です。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特に気にしなく、居間にて皆さんで過ごされたり、疲れた時には自室で一人でテレビ鑑賞やベットで休まれております。時間になると、自ら食堂に出て来られます。殆ど全員がレクリエーションに参加されている。仲良しの方の居室訪問などもされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人・ご家族の方の好みで全く同じ居室ではありません。以前は、タンスなどの持込の物がありましたが、それを使用している利用者の方は現在ではおられません。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不安や混乱を招く事がないように安全・安心に暮らせる様に工夫しています。		